



一音

・よ 迹ハ土の
・よ 丹ハ赤
・よ 荷ハ荷
物を云

二音

・よこ 赤古ハ和ら
・よ 掌ハ新食の約
新食を以て食事を云
・よ 新食の約
を云

三音

・よや 悦ハ夜志ハ
・よ 而惠夜ハ
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 布

四音

・よぎ 柔備ハむつま
・よぎ 和幣ハ和ら
・よぎ 丹摺ハ赤土を
・よぎ 似合ハ似合

五音

・よぎ 荷之緒ハ俗子
・よぎ 蓮ハ酔ハ
・よぎ 比余保
・よぎ 似合ハ似合

六音

・よぎ 和らかな系
・よぎ 丹摺ハ赤土を
・よぎ 似合ハ似合

七音

・よぎ 和らかな系
・よぎ 丹摺ハ赤土を
・よぎ 似合ハ似合

八音

・よぎ 和らかな系
・よぎ 丹摺ハ赤土を
・よぎ 似合ハ似合

四音

・よ 新ハあ
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

五音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

六音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

七音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

八音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

五音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

六音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

七音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

八音

・よ 和らかな系
・よ 丹摺ハ赤土を
・よ 似合ハ似合

○ぬ

一音 ・ぬ 沼ハぬ ・ぬ 瓊ハ玉 ・ぬ 野ハの ・ぬ 宿ハ寝

二音 ・ぬで 鐸ハ大ナ ・ぬカ 額ハヒヒヒ ・ぬ 帯ハ神

物モトシ又後ノ時 ・ぬキ 緯ハ機ノ横 ・ぬ 比 奴ハ申

云 ぬマ 要客ハ字 義ノ如ク

三音 ・ぬ 瓊ハ玉以テ ・ぬ の 野上ハ野 ・ぬキ 貞

貫貫ハ水ノ飛リニ ぬキ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

手小盤ノ上ヨク ぬキ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

縫ハ衣服ヲ ・ぬキ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

へ 草ヲ云 ぬエ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

づカ 奴都可佐ハ野 ・ぬ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

額衝ハ頭ヲ云 ・ぬキ 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

・ぬア 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

・ぬア 野鳥ノ鶏ト云テ ・ぬエ 怒

一音 ・ぬ 嶺ハミ

二音 ・ぬギ 禱ハ賀称ヘ

・ぬハ 泥婆ハぬ

三音 ・ぬヤ 寝屋度ハ

・ぬゴ 意ハ俗

・ぬラ 比

・ぬ

・ぬ

いと 得取ハ物を荷ひわ
るきて賣る者を云
いと だまひ 副車ハ供の者
の乗る車を云
いと

こづ 引豆良比ハ
引つるを云
いと ねく 于稻于稻志ハ時をき
びちを云

いざま づき 跪ハ地ニ膝を
突て居るを云
いと ころ 借ハ獨居
なりを云

いと わら 俗ニいと通
アト云ヨ日
いと きて 之の 賜物
を云
いと ちら おび

常陸の鹿島の祭の日ハ女の懸懸ハ人の名どもを布
の帯子カキ付て神前ヨおクヨキキ男の名カキ付る帯
のうらハハを云此帯ハカゴト、ツメ紐ヨ
て造れるハあヨカゴト、いひうケヨ

心氣ナ
いと とき ぎみ 一版と云
いと だ なき 人カ女ナラ
ぬを云

いと わる 人オム死カ
いと おそ せ ながりなき
さまを云

とよ ぬ 普通の人のとよ
いと ち ちの ち ちハ古今集の
はしカきを中代

あし 右近の言むの日 檻の日 向ハ
たてヨリケケ車の下
たれヨリ。女のカホの。ほの。か。み。え。分。れ。ば。と。よ。め。ば。こ。と
も。な。き。を。上。よ。つ。く。づ。き。日。を。下。よ。つ。け。て。よ。み。し。よ。わ。む。つ
か。し。く。ハ。な。り。右。近。の。馬。場。の。日。ハ。五。月。六。日。を。ハ。一
る。な。り。づ。く。檻。ハ。天。武。天。皇。紀。子。檻。穿。と。み。え。た。れ。ば。こ。ト。ヨ
て。ハ。馬。檻。を。ハ
ふ。な。り。べ。し
いと うとき 人ヨむつ
まぬを云
いと ちがみ 女の
額の
髪毛
いと おま 清涼殿の畫
の御座を云
いと ちき ちろ 引合
を云
いと ちの
よそ 各の衣
裳を云

六音上
いと つきのみこ 皇太子ハ御位を継た
まよべき御子を云
いと ひめ お原

きみ 女王ハ二世以下
皇親の女を云
いと ひのみや 比能美夜比登ハ
大宮人を云

いと のか 膝削ハ俗ニ云
ひが
いと ちの ちの 首渠者
ハその

らる 真奴良苗 真ハ登語
 奴良苗ハ所屬なり
 • まなぐひ 真魚咋ハ魚類の
 食物のこと
 • まさわり 方ハ俗ハま
 つさかりと云
 • まつろふ 歸順ハおとむき
 ちかむを云
 • まちと家 待取ハまちつく
 取を又待むか
 へて取 真木佐サハ真木を
 斧を採を云
 • まさきく 真幸ハ
 稱事ハさか 麻自詩利ハまど
 なるを云
 • まさきく 真幸ハ
 美
 ぐを 瞠ハ目をあぶらば
 目を云
 • まぐなぎ 蟻ハ俗ハ
 ぶよと云
 羽虫 主人に池 麻ハ長二尺廣一尺五分ほ
 どの布を前ハちち、を云
 • まどころ 所政
 ハ家内の政事 目をひかちて正面ハ向ひが
 を司る取を云 麻ハゆき 目やうな取を云
 詞にてけや
 又はづかきさるはたか
 • まどらひ 人はきあ
 ひを云

けわざ 勝負ごとの時 負方
 の餐を設るを云
 • まかぢひ ちちあつ
 かんを云
 • まちつ
 け待え ますはな からま
 るを云
 • まちうけ 人を待え
 たるを云
 • まや
 なき 宜ハかぬ 守部りて守
 守部を云
 • まあわく みる
 云 真術士 守部りて守
 守部を云
 • まあわく みる
 守部を云
 • まあわく みる
 守部を云
 其時ハい 麻ハ久良麻久ハ
 枕ハ左棄逗囉ハ
 真柝葛を云
 • まあつぎみ 御前ハ候
 御前ハ候
 五音 ますきく 麻ハ左棄逗囉ハ
 真柝葛を云
 • まあつぎみ 御前ハ候
 御前ハ候
 公卿 ますかみ 真十鏡ハ真澄の
 鏡と云こと
 • まんか、みまそ
 眉根搔ハ人ハ多
 云諺子因て云ことなり
 目と ますねかき 眉根搔ハ人ハ多
 云諺子因て云ことなり

たまなま 麻多麻奈須ハ真の玉
の如しと云ことと
まなまつく 真玉舟ハ真

を云て緒と
まかなひて 真艶持ハ真の艶とてこわげと
つ、きぢり

と
まらぢぢち 麻久良多知ハ常よ枕
まのあさわ 眼宮

前を
まなぢぢら 麻那婆志良
まつあこを 麻都里太須
ハ奉るを云

・まらぢぢかむ 枕可年ハ枕おせ
・まらぢぢがみ 枕を云
・まらぢぢを御膳物
・まらぢぢのぼわ 参上
・まらぢぢを前を通

・まらぢぢ信よいまく
・まらぢぢ政事をおこ
・まらぢぢだふを云

六音上巳
・まきぎのつまで 真木乃都麻手ハ真木を削て
・まきぎのつまで 賤木となりにを云

かみまを
ひををるを云
・まらぢぢにまらぢぢ
・まらぢぢにまらぢぢ
・まらぢぢにまらぢぢ
・まらぢぢにまらぢぢ

まらぢぢにまらぢぢ
ひまけぬん
ひぢるを云

〇み

一音
・み 御ハ真ト通ふ辞よて
・み 水ハ
・み づを云

二音
・みを 御尾ハ御ハ美称尾ハ山の高き所を
・みか 麩

酒を造る
・みわ 三輪ハ延和にて酒
・みけ 御膳ハみわ

かめを云
・みぞ 御眼ハ清め
・み 水ハ泥ハ流れ
・み 思穂耳の類

・みづ 瑞ハ物のうるさく
・みめ 容貌
・みふ 御封戸を云

三音
・みま 汝ハなむぢ
・みうせ 死ハあぬ
・みつ 美

久ハ水ト
・みろめ 見流目ハ見
・みさけ 望ハあふき
・み

あ一 饗ハ御餐應・みつぎ 調ハ公ノ貢系・みらむ 見良武
 らんの・みやで 宮出ハ宮門・みなか 中ハ俗子真・み
 約言ハ 瀧ハやつ・みなぎ 寶無ハ無・みいで 見出ハ見ハ
 つ北 瀧ハやつ・みなぎ 寶無ハ無・みいで 見出ハ見ハ
 みづ 角髪ハ古代男の髪を左・みぢや 三田屋ハ神の御
 ・みけし 御衣ハ作メ・みおろ 社を云・みぞ社 雨氷ハ
 了の雨・みぬま 水如麻ハ水ト・みと 御年ハ御ハ美称
 ・みやぢ 宮道ハ大内へ・みろ 御水ハ飲・みを 御食
 ハ美稱食ハ飲・みさく 都を云・みぢや 水沫ハ水・みつ
 食ハ美稱食ハ飲・みさく 都を云・みぢや 水沫ハ水・みつ
 之 水枝ハみつ・みいぶ 水澁ハ水ト・みやけ 屯家ハ國
 水枝ハみつ・みいぶ 水澁ハ水ト・みやけ 屯家ハ國

と御倉・みくら 三稜草ハ莖の・みくら 御厨ハ御料理場
 の菜園・みやび 温雅ハ上品・みづし 御厨子ハ座右ノ立
 ぢをを お・みつし 御膳取の・みく 貴人の・みく 見
 入系・みい北 神カどの・みそか ひとかと
 四音・みやつこ 造ハ御臣ト其部・みてぐ 御幣ハ神
 の總・みはわし 御カハ御佩ハ・みろ 美技之治ハ美
 名を 美奈宇良ハ水・みづば 始ハ水逝ハ水の
 云・みなぎは 美奈枝波ハ・みく 御弓ハ床・みやびを
 ・みなぎは 美奈枝波ハ・みく 御弓ハ床・みやびを

かたが群が正物のこ
多とつ、まきけり
・むかきくろ
武部左衛門尉、向ひて
遠く遠放たれ地を云
・む

あけく系を結ば系
・むねけしる
物さわぎ
・むかひけし
腹當

の子・むくくく
俗におそろしく
・むせかへて
涙はおせ
・むがーやう
古躰な
・むくつけき
おそろしく
・むねつふ

ろ胸のふき
・むねいにし
若党な
・むなぐるま
人の乗
ぬ車を
云・むべくく
宜きさま
なるを云

六音上
・むまびのかみ
産靈ハ萬物を生成
・むまぶのか
・むすびの
うちくたに
・むねせきあ
く系胸まき
むを云

め

二音
・めど
薯ハめど菰

三音
・めづこ
愛記ハ愛
・めのこ
女ハ婦
・めせ
髪ハ髪
めをば
み見を云
・めぐと
目辞ハ見る
・めがれ
目離ハ見

遠どか
・めぐく
隣愛ハ俗ハ可
・めぐ
目事ハ見る
・め
目事ハ見る
・め
目事ハ見る

四音
・めをほり
目字欲ハ見
・めづら
米豆良可ハめ

・めなら
眼並ハ見
・めく
目さまにやうにて
・めく
目さまにやうにて
・めく

をわ、け和々氣ハ衣なごのきれや
 ・わなぎ絞ハく、
 云をわ、け和々氣ハ衣なごのきれを云
 ・わざとことららよ
 ・わらびをわるき
 ・わがよ我ガよしを云

四音
 ・わきづき吾妹子ハわ
 ・わざ和を紀ハ
 ・わごせ我夫子ハわ
 ・わかせ日ハわ

わ、く和那ハ又ハ慄ハ然ガ
 ・わくら童謡ハは時のは
 ・わきぢ別ハ

わ、か和ち日
 ・わぢ身の震ひ
 ・わら童謡ハ時のは
 ・わづ毎理と

よて我身ハ
 ・わら和ら俗ハおて
 ・わが吾大王の吾大のがお

五音
 ・わか吾ち日
 ・わが吾大王の吾大のがお

をわ我ハ日
 ・わが吾大王の吾大のがお

六音
 ・わ和ご大お王ほ大き王み大

重カサね云
 ・わ和ら大や大ふ大わ大ね大

自身ハ自身ハ
 ・わ和ら大や大ふ大わ大ね大

念入ると
わづきとあふに
和豆肝之良受ハカチも

わねまあふぬ
自身のうちと
わきあとのころも

鉄掖ハ武官
わすれておそへや
和須礼臣於毛倍也ハわ

わとのほりのくよ
海外國ハ
外國を云

〇る

一音
・る 措ハるの
・る 率ハる
・る 儀ハる

二音
・るて 率ハ俗ハひきつ
・るや 儀ハる
・るで 堰ハる

三音
・るやび 礼ハる儀を
・るぐひ 章具比ハ溝ハる

四音
・るやまひ 敬ハる
・るやしる 礼物ハ敬ハる
・るのあ 猪

・るやどま 居ハる
・るよぶ 坐ハる
・るさわ 坐ハる

・るわけ 彼方此方ハ居
・るやまひ 敬ハる
・るやしる 礼物ハ敬ハる

・るやどま 居ハる
・るよぶ 坐ハる
・るさわ 坐ハる

・るやまひ 敬ハる
・るやしる 礼物ハ敬ハる
・るのあ 猪

・るやどま 居ハる
・るよぶ 坐ハる
・るさわ 坐ハる

・るやまひ 敬ハる
・るやしる 礼物ハ敬ハる
・るのあ 猪

・るやどま 居ハる
・るよぶ 坐ハる
・るさわ 坐ハる

・るやまひ 敬ハる
・るやしる 礼物ハ敬ハる
・るのあ 猪

・るやどま 居ハる
・るよぶ 坐ハる
・るさわ 坐ハる

○ 恵

二音 ・ 恵む 鱗エ發ハ栗ノなどの ・ 恵む 咲エハム顔をエをム ・ 恵る 彫シ

木石の類は物を
をほるをいふ

三音比 ・ 恵らぐ 歡喜エ咲ガハムみサか ・ 恵まひ 惠エ麻マ比ヒハム

・ 恵らぐ 惠良エ良ラハムよル ・ 恵びぞめ 蒲エ萄ビ深シハム ・ 恵ま

一き 見ミるルよクつク ・ 恵せその 下シ品シなる ・ 恵み

さかえ 惠エ美ミ佐サ迦カ延エハム ・ 恵ひさまぐれ 沈エ酒シハム酔シるルをム ・ 恵

みをひらく 花ハなノどのノうウつク
咲サかキをム

○ を

一音 ・ を 衰シハム高タカきキ地チをムてテ山ヤマのノ ・ を 緒オをム

二音 ・ を 食シハム物モノ ・ を け 麻マ笥シハム麻マをムらム ・ を ち 越チ方ハ

と云こ ・ を 老ラ翁ウハム年ネン老ラウ ・ を 原ゲンハム麻マのノ生シ ・ を 彼カ方ハ

や小屋ヤウハムちチいイ ・ を 人ニン 竟ケイハム極キョクめメ盡ジンをム ・ を 半ハン知チ

かへふこと 初ハツ ・ を 人ニン 痺シビハム病ヤム ・ を 袁エン許コハム俗ソク ・ を

を 唯タカハム卷マク ・ を 手テ曾ソウハム俗ソク ・ を 遠エン等トウハムをムらムの

・ を 事ジ譯ヤク語ゴハム通ツウ ・ を 小コ忌シハム神カミ祭マツル子コあハづ ・ を 月ツキ花ハナは

ど云ハムのを
おろろをいふ

三音 ・ を 大ダイ地チハムおオろロ ・ を へ 小コ集シツ樂ラクハム男オトコ女メのノ野ノ

をびき 手比吉ハ緒牽よてキ 雄男志ハおとこ

をい 手ハ理ハた 手曾呂ハ手 をつ、遠都

現を 手ハ毛ハ 媒鳥ハよその鳥をよぶ

を 折敷ハ古代本の枝 を物ハそり をよ

を 指ハ 鏡ハ 緋ハ 緋ハ緒通ハ約言

を 紫ハ 紫ハ緒を通 緋ハ 緋ハ緒を通

を 氷魚ハ 氷魚ハ緋を を兼用

を 假字ハ 假字ハ 假字ハ 假字ハ

四音 右ハふとき柱を をむな をむな をむな をむな

を 食國ハ食ハ 所知看ト 同云 を

を 飲食ハ 食ハ を を を を

を 物ハ を を を を を

を 童ハ 童ハ 童ハ 童ハ 童ハ 童ハ

を を を を を を を

を を を を を を を

五音 を を を を を を

を を を を を を を

を を を を を を を

園圃の友々々

コ一

らしたるちちりかしくもあやのよ
師のぬのいそしあはさるもね
うはあまのて。若のほはうつもれ
んうみのほいさくおかやの澄世
久しくらん井のよるうつらん
とてこるみ翁の孫若梅とが
ふあひて板土ちちりつるよまむ

あやたるかくしよの弘化二年
正月うちよるる後河内園の
石田のよとの井の當直

伊豆熊坂村平右衛門著

弘化二年乙巳春正月

東都書肆

本石町十軒店

萬笈堂英大助梓

江都書林

下谷御成道

青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊	八面鋒	四冊
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晚唐百家絕句	五冊
題画詩類鈔	二冊	香籛集	一冊	和歌題百絕	一冊
三大家絕句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	東征稿 西上記	二冊
漫遊文章	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歲華一枝	一冊
歲華一枝拾遺	一冊	名乘字引	一冊	名乘字彙	一冊
略註五經字引	一冊	篆書字引	一冊	易學小筌	一冊
書家必用	一冊	書家錦囊	一冊	書家便覽	一冊

古韻通叶	一折	醫書之部	治痘論	一冊	治痘要論	一冊
治痘要方補遺	一冊	痘疹戒草	三冊	痘疹養生訣	一冊	
痘瘡食物考	一折	治痘要訣	一冊	續痘科辨要	三冊	
種痘辨義	一冊	保嬰須知	二冊	方函	二冊	
日養食鑑	一冊	雜書之部				
		翁問答	四冊	三省錄	五冊	
世事百談	四冊	瓦礫雜考	二冊	東江小倉百首	一冊	
子昂真草千字文		子昂龍興寺碑		隸書醉翁亭記		
蘭竹画譜	二冊	竹沙小品	一帖	光琳百圖	二冊	

光琳百圖	後編 二冊	画圖撰要	三冊	一蝶画譜	三冊
蕙齋略画	二冊	刀劔圖考	一冊	刀劔圖考	二篇 一冊
裝劔備考	一冊	鞍鐙圖式	一冊	甲冑着用辨	二冊
貞丈家訓	一冊	田畑調法記	二冊	百姓袋	一冊
校正孔方圖鑑	一冊	珍錢奇品圖錄	一冊	古錢鑑	一冊
佛鬼軍	一休 一冊	三畏一心記	一冊	日蓮御一代記	一冊
善惡種時和讚		八部秘講釋	一冊	曆日講釋	一冊
歌書之部					
貫之集類題	二冊	<small>香川景樹集 桂の落葉</small>	二冊	<small>海野遊翁詠 柳園家集</small>	二冊
千町拔穗	一冊	園圃拔菜	二冊	萬葉用字拾	一冊

靈能一貫	二冊	源氏物語系圖	一折	手柄岡持狂歌狂文	二冊
蜀山百首	一冊	仮名類纂	一冊	竹村茂枝集	三冊
俳諧之部				穗向屋集	三冊
續故人五百題	二冊	掌中故人五百題	一冊	新五百題	二冊
新五百題	二冊	嘉永五百題	二冊	今人五百題	三篇 四冊
近世五百題	二冊	白雄坊五百題	二冊	過日庵撰 今人百家類題	二冊
<small>過日庵撰 近世十家類題</small>	二冊	名所千題集	三冊	題林發句集	四冊
十萬發句集	四冊	乙二發句集	二冊	曉臺七部集	二冊
發句古今撰	二冊	<small>過日庵輯 蒼虬翁句集</small>	二冊	今人發句集	二冊
俳諧寂琴	二冊	饒舌錄	二冊	過日庵撰 名家類題	四冊

一葉集	<small>芭蕉翁 一代集</small>	五冊	一葉集	<small>後篇 翁之文消息</small>	四冊	俳諧集草	十六冊
俳諧四季草		四冊	安政五百題		二冊	<small>過日庵撰 類題金玉集</small>	四冊
風俗文選拾遺		二冊	庭訓往來		一冊	風月往來	一冊
梅澤先生手本向			消息詞		一冊	庭梅帖	一冊
千字文		一冊	女今川		一冊	女推俗要文	一冊
御成敗式目		一冊	雪後帖	<small>石摺</small>	一帖	新撰詩歌合	一冊
新三十六歌仙		一帖	實語教童子教		一冊		
續撰朗詠集		二冊					
諸流手本向							
同真名序		一帖	尊朝瀟湘八景		一冊	大橋庭訓往來	一冊

大橋新年帖	一冊	橘正敬庭訓	一冊	正敬商賈往來	一冊
蓮池堂法帖	一帖	瀧本芳野道の記	一冊	瀧本鴻書帖	一冊
雜書并繪入物之部					
十返舎一九案文 諸國書狀指	一冊	教訓圖會 <small>前後</small>	二冊	皇朝三字經	一冊
繪本國恩俚談	一冊	大學笑句	一冊	裁縫早手引	一冊
米錢胸算用	一冊	每朝神拜小言	一折	式亭三馬作 小野馬鹿村	一冊
十返舎一九作 附會案文	一冊	山東京傳作 滑稽文選	一冊	安見道中記	一冊
唐土名所の繪	一册	甲越勇士鑑 <small>前後</small>	二冊	諸職雛形	一冊
花鶴百人一首	一冊	女大學玉文庫	一冊	女庭訓往來	一冊



天下 登龍丸

食物一切
合名

壹粒入
包代百文
七粒入
代六百五十文

此丸は天下の第一の秘法にて、痰咳、氣喘、喉痛、胸膈、不舒、嘔吐、泄瀉、痢疾、疝氣、疔瘡、癰疽、腫毒、一切の病、無効ならず、神效無比なり。此丸は、山陰の某處に、古くより傳へられて、其の秘法を、秘して傳へず。余が、此の秘法を、得て、此丸を作らば、天下の病、皆癒すべし。故に、此丸を、登龍丸と名づけ、天下の病、皆癒すべし。此丸は、山陰の某處に、古くより傳へられて、其の秘法を、秘して傳へず。余が、此の秘法を、得て、此丸を作らば、天下の病、皆癒すべし。故に、此丸を、登龍丸と名づけ、天下の病、皆癒すべし。

痰咳、氣喘、喉痛、胸膈、不舒、嘔吐、泄瀉、痢疾、疝氣、疔瘡、癰疽、腫毒、一切の病、無効ならず、神效無比なり。

此丸は、山陰の某處に、古くより傳へられて、其の秘法を、秘して傳へず。余が、此の秘法を、得て、此丸を作らば、天下の病、皆癒すべし。故に、此丸を、登龍丸と名づけ、天下の病、皆癒すべし。

此丸は、山陰の某處に、古くより傳へられて、其の秘法を、秘して傳へず。余が、此の秘法を、得て、此丸を作らば、天下の病、皆癒すべし。故に、此丸を、登龍丸と名づけ、天下の病、皆癒すべし。

此丸は、山陰の某處に、古くより傳へられて、其の秘法を、秘して傳へず。余が、此の秘法を、得て、此丸を作らば、天下の病、皆癒すべし。故に、此丸を、登龍丸と名づけ、天下の病、皆癒すべし。

